

Essay

Sapiarc.com

2016年11月16日(2016-3)

日米安保条約とアメリカ軍基地

「トランプ現象」が世界を覆っている。彼がアメリカの大統領に就任するまでにはまだ2箇月ほどあるが、彼が何にどういう形で手を付けるかにこれほど注目が集まることは、やはりアメリカが超大国であることの証拠だろう。

日米安全保障条約(日米安保条約)に対するトランプ氏の政策が、これまでのアメリカの対日政策の根幹を変えることになると言っている評論家も既にいるが、私も同じことを感じていて、それは歴史的必然性をもっていると思っている。太平洋戦争の「戦後」は70年以上にわたっており、その間の、日本のアメリカ追従は長きに過ぎた。今では日本人の多くが、日本がアメリカのこれまでの世界戦略に組み込まれていることを当たり前のように思ってきたのではないだろうか。アメリカとソ連との間に冷戦が続いていた間、日本がアメリカに追従していたのは止むを得ないことだったと思うが、ソ連崩壊後も、その状態が続いているのは異常なことだと思うべきだ。

1951年(昭和26年)9月8日に、サンフランシスコ平和条約が締結されたが、同じ日に日米安保条約も締結された。当時、私は中学3年生で、まだ兵庫県西宮市に住んでいたが、翌10月の初めに東京に転居した。中学生だったから、国際政治に対して強い関心を持っていたわけではなかったが、新聞などで、とくに左翼の評論家たちが、本題の平和条約よりも、日本をアメリカに従属させることになる日米安保条約の方を問題視していたことを憶えている。結果として、その見方は正しかった。沖縄は直ぐには日

本に返還されず、アメリカ軍による統治が続き、多くのアメリカ軍基地がそのまま沖縄に残った。沖縄にアメリカ軍基地が多いことは現在にまで及んでおり、いろいろな問題を起こし続けていることは周知のとおりである。

アメリカが沖縄に執着してきたことの原因は、1945年4月から、沖縄では約3箇月間日米間に本格的な戦闘が行われ、勝ったとはいえ、アメリカ軍も大きな損害を被ったことにある。アメリカ軍は1万2千人以上の戦死者を出しており、とくに陸軍の中隊長だった中尉クラスの若手将校に多くの戦死者を出したと言われている。接近戦になると、アメリカ兵の襟章まで見えて、それで階級がわかるので、日本兵はアメリカ軍の将校を狙い撃ちしたのだ。徹底した訓練の「成果」だった。戦死した将校にはWest Point陸軍士官学校出身者も多かっただろう。戦死していなければ将官にまで昇進した可能性が高い人たちだ。今は首都ワシントン郊外のArlington 国立墓地に眠っている。戦闘は日本軍がほぼ全滅する形で終わったが、その間、戦闘に巻き込まれた沖縄住民の悲惨な状況は、日本人の誰もが忘れてはならないことである。また、アメリカ軍の歴史に残る激戦につぐ激戦が行われた以上、アメリカ軍としても簡単に沖縄を手放すことはできなかったのだ。

沖縄のアメリカ軍基地群は、朝鮮戦争やベトナム戦争において、大きな役割を果たしたことは間違いない。しかし、これはアメリカの世界戦略に重要であったということで、日本の防衛には第二義的なものだった。今でも、南シナ海へ

の中国の野心を抑止する意味で、沖縄のアメリカ軍基地はある程度の意味を持っているだろう。しかし、日本にとってもっと身近な尖閣諸島に、万一中国軍が何らかの形で上陸を試みたりすることがあるとすると、アメリカ軍が、日米安保条約に基づいて、それを積極的に阻止するかどうかは大いに疑問だと言わざるを得ない。アメリカには、毛沢東治下の一時期だけを除いて、中国を敵視して来なかったという伝統がある。

結局、日本はアメリカに頼らずに、自国の領土を自分で保全する態勢を整えるしかない。そうだとすれば、沖縄のアメリカ軍基地は実は日本には不要なものなのではないだろうか。現在、日本はアメリカ軍の日本駐留関係経費として7千6百億円以上も支払っているそうだ。トランプ氏が、在日アメリカ軍基地にかかる費用をもっと日本に出せというのなら、それを断固として拒絶して、その代わりに、アメリカ軍基地を減らす方向で交渉を進めるべきだと思う。とくに、緊急に解決すべき問題を抱えている普天間基地をできるだけ早く日本に返還してもらい、その代替基地の建設も取り止めることが、地元の沖縄にとって一番望ましいことだし、今後の日米関係にも良いことなのではないか。

核の傘という別の問題もあって、日本はアメリカの傘に入っている。これについても、トランプ氏は核拡散防止条約を無視するような発言をしている。本当に無視するつもりならば、日本は重大な決定をすることを迫られるかもしれない。わが国の近くには、北朝鮮という厄介な国や驚くべき勢いで軍拡を進めている中国がある以上、夢のようなことを言っていて済むことではない。日本人なら誰でも3回目の核攻撃の対象になっても構わないとは思わないだろう。

予想外のなりゆきで、極めて重要なことが進む可能性が出てきている。アメリカ軍の基地をできる限り減らし、究極的にはなくすことで、日本の真の独立が達成できる。そのためには、日本の国民一人ひとりが、これまでともすれば忘れていた、自国は自分たちで守る「覚悟」を腹に据えることが必要だ。明治時代の人たちが、その「覚悟」をもっていたことは間違いない。

「同盟」は、そういう覚悟のうえにおいてこそ、成り立つものだ。（おわり）